



広報

おまえ

大型で強い勢力で上陸した台風19号は、東日本各地に甚大な被害をもたらしました。本町でも最大限の警戒態勢がとられる中、10月12日深夜に風雨が最も強くなり、最上川などの水位が急上昇。翌13日朝には濁流が猛烈な勢いで押し寄せ、百目木、鹿子沢などの家屋や田畑が水に浸かる被害が発生しました。

押し寄せる、  
台風の余波。



特集

再発見の風景

令和元年

11

No. 705



# 台風19号の爪痕

つめあと



10月12日に伊豆半島に上陸した台風19号は、東海・関東・東北地方の各地で記録的な大雨を降らせました。これによって多くの河川が氾濫し、建物をはじめ道路などのインフラに甚大な被害が発生。80名を超える犠牲者が出る惨事となりました。町内でも百目木、鹿子沢地区を中心に、家屋や田畑に浸水被害が続出。人的被害は出なかったものの、5年前、6年前に続く豪雨災害として、深い爪痕を残しました。

## 東日本を襲った猛威

「過去最強クラス」の勢力で上陸するともいわれ、13都県に大雨特別警報が発表されるなど、大きな脅威をもたらした台風19号。本町でも、予定されていたイベントが相次いで中止になるなど、上陸前から各方面に影響が出始めていました。10月12日13時、町の関係職員が登庁し台風への警戒と情報収集を開始しました。17時には町内4カ所に自主避難所を開設し、貫見地区で5人が自主避難。風雨が強まったその夜、本町に土砂災害警戒情報が発表され、木の沢地区にも避難所が開設されました。最上川の水位上昇により消防団も警戒

を開始。予断を許さない状況が続きます。

翌13日午前5時15分、本町の土砂災害警戒情報が解除され、状況はいったん落ち着きをみせました。しかし、安心したのも束の間。夜明けとともに姿を現したものは、台風一過の青空の下にはおよそ似つかわしくない、轟々たる濁流に変貌した川の姿でした。

## 母なる川が一変する

「まさか——」川沿いに住む方がそう驚くほど、最上川の増水は収まることなく続き、市の沢川の水位も上昇。ふれあい会館の避難所には、7世帯16人が避難しました。百目木地区では



## 台風19号通過に伴う主な経過

10月12日(土)

16時06分 本町に大雨・洪水注意報発表

17時00分 ふれあい会館など町内4カ所の施設を自主避難所として開設

21時09分 本町に大雨・洪水警報が発表

22時45分 本町に土砂災害警戒情報発表

23時40分 大江町災害対策本部設置

23時50分 木の沢川地区に対し避難準備・高齢者等避難開始情報(レベル3)発令

10月13日(日)

(この間、消防団が各地区で警戒体制)

5時15分 本町の土砂災害警戒情報解除

5時30分 町内4カ所の自主避難所閉鎖

6時27分 大雨警報から注意報に切替

7時20分 百目木地区で増水傾向のため消防団第1分団に現地待機・警戒を要請

8時00分 ふれあい会館避難所再開設

8時15分 百目木地区17世帯49人に避難準備・高齢者等避難開始情報(レベル3)発令

9時00分 第2分団ポンプ車により市の沢川から月布川へ排水開始

(この間、自動車分団・第3分団に応援要請)

11時00分 県が排水ポンプを市の沢川(鹿子沢地区内)に設置

11時06分 洪水警報から注意報に切替

12時55分 百目木地区で道路・宅地内の土砂除去のため消防団が放水・清掃開始

13時00分 避難準備・高齢者等避難開始情報(レベル3)解除、避難所閉鎖

10月14日(月)

8時00分 第1分団、百目木地区における放水・清掃作業開始(10時完了、解散)

10月15日(火)

10時00分 被災世帯へ消石灰配布

17時00分 大江町災害対策本部解散



## 10月6日 町総合防災訓練実施



台風19号到来1週間前の10月6日、左沢高校で町総合防災訓練が実施され、関係機関のほか藤田、小見、月が丘、富沢地区の皆さんが参加しました。

訓練では、土のうの作り方と積み方を学ぶ水防訓練などがおこなわれました。今回の台風被害では実際に大量の土のうが必要となっており、いざというときに備えた防災知識の習得や、普段からの防災意識の保持の重要性が改めて明確になりました。

①13日午前、増水し濁流となった最上川。旧最上橋の橋脚が上部近くまで水に浸かる ②川端地域。夏まつり大会本部へ続く坂が川の一部と化し、住宅も浸水 ③鹿子沢地区。消防団のポンプによる市の沢川から月布川への排水作業 ④鹿子沢地区。リンゴ畑とラ・フランス畑が水浸しに。畑の所有者は「リンゴが水に浸かると、焼きリンゴのように黒くなってしまいます。一つひとつもぎ取って捨てるしかない」と話す ⑤百目木地区。浸水した民家倉庫から、消防団員がバケツなどで水を掻き出す ⑥鹿子沢地区。排水ポンプによる月布川への排水作業 ⑦百目木地区。水が引いた後、道路や宅地から泥を除去するため、消防団により放水と清掃作業がおこなわれる

平成26年の豪雨災害以来となった浸水被害。台風19号は自然災害の影響の大きさを私たちに改めて見せつけ、太平洋へと消えていきました。

床下浸水1件、床下浸水4件の被害が発生。鹿子沢地区などでは田畑が浸水、その他、強風で柏陵荘の窓枠が破損する被害が出ました。この浸水被害に対し、町消防団は約400個の土のうを作って対応したほか、排水作業や放水による土砂除去を実施。町所有のドザー・ダンプも出動し、各方面が協力して全力で復旧作業にあたりました。



# 再発見の風景

～文化的景観の見方・魅せ方を探る～

10月10日にふれあい会館で開催された、全国文化的景観地区連絡協議会の大会の様様

平成25年3月、「最上川の流通・往来および左沢町場の景観」が県内で初めて国の「重要文化的景観」に選定され、私たちの暮らす街並を改めて見つめ直す大きな契機となりました。

あれから約6年経った今年10月、「全国文化的景観地区連絡協議会」の大会が本町で開催。本大会は「魅せる文化的景観」と題し、私たちの町の景観の魅力をいかにして伝えていくかというテーマについて、さまざまな意見交換がおこなわれました。

## 重要文化的景観とは

左沢楯山城跡、原町・内町・横町通り、最上川沿いの街並、神社仏閣、旧銀行跡——いずれも、私たちが普段目にしていく馴染み深い町の風景です。これらの要素を持った私たちの町の景観が、国の「重要文化的景観」に選定され、さまざまなイベントや観光のポスターなどに「重要文化的景観」の文字が躍るようになりました。

この重要文化的景観という言葉の意味を改めて探ると、平成16年に一部改正された文化財保護法に行き着きます。同法では「文化的景観」について、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの」と規定されており、この中で特に重要で保護の措置がとられているものが「重要文化的景観」に選定

され、その保存のために国が補助などをおこなうこととされています。

単に眺めが良い、あるいは整然とした風景というだけではなく、過去の人々の営みの跡が見えるとともに、そこに暮らす人々にとって今もなお欠かせない価値を持っている——まさに、私たちの住む町のような景観こそが「重要文化的景観」の典型だといえるのではないのでしょうか。

## 全国の景観から学ぶ

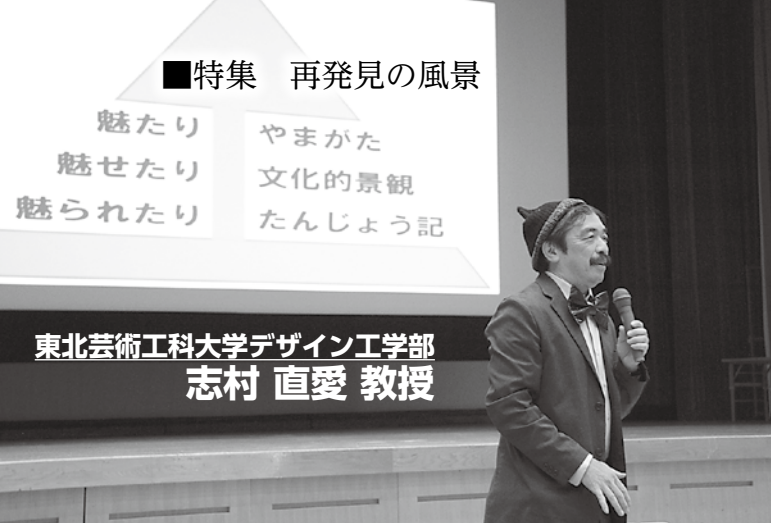
国の選定を受けた重要文化的景観は、現在のところ全国で61カ所にのぼります。その中には、「遠野物語」で有名な岩手県遠野市や、日本三景の一つ「天橋立」で知られる京都府宮津市などの名前も見えます。本県の重要文化的景観は、初の選定を受けた本町と、平成30年に選定された長井市の2例のみとなっています。これらの文化的景観を保



魅たり  
魅せたり  
魅られたり

やまがた  
文化的景観  
たんじょう記

東北芸術工科大学デザイン工学部  
志村 直愛 教授



## 基調講演

### 「魅たり魅せたり魅られたり…… やまがた文化的景観たんじょう記」

本町で、文化的景観の案内サインを考えるワークショップを実施している志村教授。基調講演では、県において「母なる川」最上川流域の文化を関連付けて世界遺産を目指した経緯など、本県の文化的景観に関わる取り組みについて解説するとともに、「景観づくり、景観を通じたまちづくりには、そのプロセスに住民・活動家・専門家など、いかに多くの人を絡められるかが大切」と語りました。

## ディスカッション

(写真左から)

【コーディネーター】志村直愛教授  
【パネラー】

- ◎石川博資さん（「舟唄の里案内人」会長）  
「その土地の歴史や文化を知るためには、情報が大切。その点でボランティアガイドの役割は大きいです」
- ◎田中建三さん（長井市「黒獅子の里案内人」会長）  
「ボランティアガイドはどこもなり手不足。趣味と実益を兼ねたものへ変えていく必要があります」
- ◎布施果歩さん（「おいで、おおえ」アシスタントディレクター）  
「動画やSNSで町の魅力を発信する取り組みを続けています。それが、自分の住む町を見つめ直し、地域の力を高めることにもつながると考えています」
- ◎菊地 翼さん（ATERA指定管理者「Port」事務局長）  
「今は若い人が少ないために一人ひとりの役割が増え、若い世代も忙しい中で地域の活動に参加されています」
- ◎須藤 和さん（地域おこし協力隊）  
「秋まつりで三味線奏者として地区の伝統行事にお手伝いできました。地域の皆さんの伝統継承に掛ける熱い思いを感じました」



## 町をより良く魅せる

大会2日目の10月10日、ふれあい会館を会場に、町民の皆さんも交えた大会のメインイベントがおこなわれました。午前中に開かれた住民部会では、「舟唄の里案内人」会長の石川博資さんと、長井市「黒獅子の里案内人」会長の田中建三

存・活用していくにあたり、相互に情報交換をおこなって課題解決に取り組むため、「全国文化的景観地区連絡協議会」が組織されました。この協議会は、重要な文化的景観選定地区のある市町村や、選定を目指している市町村などが会員となって構成されており、本町も加盟しています。

本協議会では年に一度、加盟市町村の一つを会場として大会を開催。今年度は本町が会場となり、10月9日から11日の3日間にわたって令和最初の大会が開催されました。

大会2日目の10月10日、ふれあい会館を会場に、町民の皆さんも交えた大会のメインイベントがおこなわれました。午前中に開かれた住民部会では、「舟唄の里案内人」会長の石川博資さんと、長井市「黒獅子の里案内人」会長の田中建三

さんが、町歩きの面白さや、町の魅力を伝える取り組みについてお互いの意見を披露。また、本町で景観を生かした情報発信や町づくりに取り組んでいる皆さんが、それぞれの活動内容を発表しました。

午後からの大会では、東北芸術工科大学デザイン工学部の志村直愛教授が基調講演をおこないました。本町の景観の案内表示についてのワークショップをおこなってきた志村教授は「町の歴史や魅力、価値をいかにして次世代に伝えていくかが緊急課題」と話し、景観を通じたまちづくりにおける住民参加の重要性を強調しました。その後のパネルディスカッションでは、志村教授がコーディネーターとなり、住民部会の発表者がパネラーとして意見を交換。それぞれの活動を通して感じたことを踏まえ、「町の景観の魅力発信」についてさまざまな提言をおこないました。



# 小さな一歩が 視点を 変える



▲「日本一公園」からの眺望。最上川と共に歩んだ文化的景観の街並が眼下に一望できます



▲最上川フットパスを歩いて川沿いの街並を見学。かつては桜町渡船場や米沢藩舟屋敷などがありました



▲原町の「市神様」（写真右下）。見落としがちな足元にも、往時の名残があります

10月11日  
現地視察  
(町歩き)

## 自分の足で観る景観

大会最終日の10月11日は、町内の文化的景観の現地視察がおこなわれました。視察コースは、左沢から最上川上流の長井市まで移動する「最上川沿いの文化的景観」、楯山公園から最上川フットパスを経て原町・内町・横町通りまでを歩いて巡る「左沢町場の文化的景観」、左沢楯山城跡を中心に山城内部から町場の外観を歩いて見学する「左沢楯山城跡と町場の景観」の3つです。参加者はそれぞれ希望のコースを選び、実際にバスや徒歩で移動しながら、文化的景観を自分の目で見ることになりました。

当日朝はあいにくの雨模様となり、特にすべてのコースに共通する楯山城跡は、足元の悪い中での見学となりました。しかし、本町の文化的景観を一望できる「日本一公園」からの眺めはやはり格別で、参加した皆さんは解説に耳を傾け

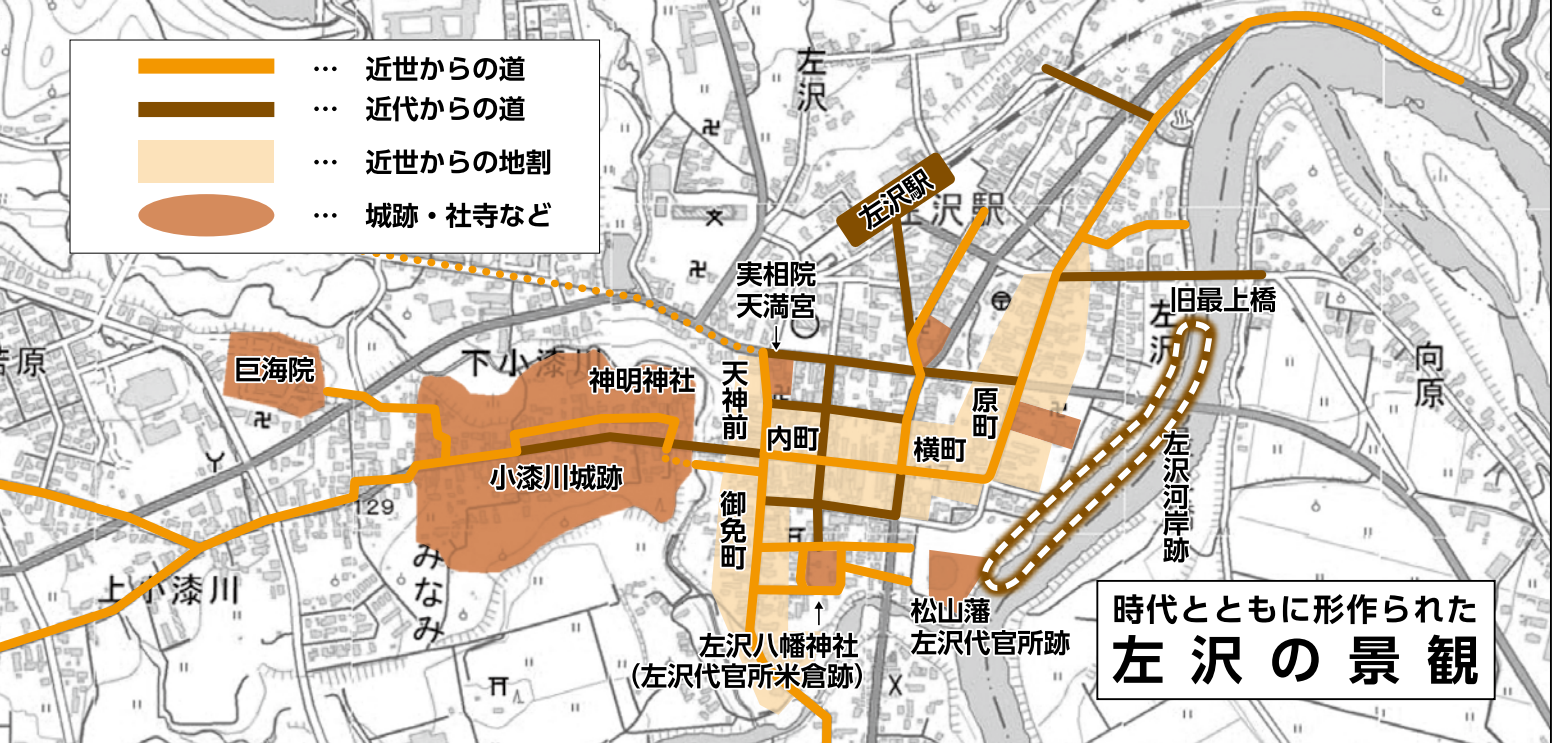
ながら、雄大な最上川の流れと旧最上橋、そして街並の織りなす景観にいつまでも見入っていました。

## 重なり合わさる街並

重要文化的景観に選定された景観名が示す通り、左沢町場の景観は多くの場合において、最上川舟運文化と併せて語られます。しかし、中世の山城跡から見渡せる街並は、決して舟運だけによって形作られたものではありません。

江戸時代、左沢は最上川舟運における重要な港町であり、月布川の中・上流域の農産物や林産物も取引されて賑わいました。そのため、最上川河畔では河岸集落と呼ばれる街並が形成されたと考えられています。一方で、江戸時代初期には小漆川城とともに城下町が整備されました。その際に敷かれた道や地割は、現在もなお形を残しています。左沢町場の景観は「川」と





▲原町で造り酒屋を営んでいた清野家の外観。正面の板戸と格子、瓦ぶきの屋根が目を引き、蔵や塀の白壁は原町通りの中でも一際鮮やかに映えます



▲この日は家主・清野太さん（写真右）のご厚意で、貴重な蔵の内部も見学することができました

## 時間と空間を超えて

住み慣れた町、毎日のように見る街並でも、歴史的な背景を意識しながら改めて自分の足で歩いてみると、驚くような発見が待っています。例えば、普段は滅多に通ることがない、自動車

「城」、2つの異なる要素によって発展した街並が組み合わされた姿だといえます。また、左沢榎山城のあった「中世」、川港と城下町として栄えた「近世」、そして左沢線開業によって駅を中心に新たな街並ができ「近代」と、時代ごとの流通・往來の特徴が重なり合っているという側面もあります。

11日の現地視察のうち「左沢町場の文化的景観」を巡るコースは、最上川沿いから商店街を経由し小漆川城跡までを歩くことで、街並の変遷と複合的な性質をより深く実感することができます。視察となりました。

も入れないほど細い道も、かつて城下町だった時代には頻繁に使われた通路だったということもあります。そうした文化的、歴史的背景のある町で何気なく日常を過ごしているということは、この街並が単なる歴史の遺産ではなく、私たちの暮らしと共に息づく「生きた景観」であるということの証明でもあります。

今回の全国文化的景観地区連絡協議会大江大会は、私たちの町がなぜ「文化的景観」とされているのか、その意義を再発見できるまたとない機会だったといえます。今度はその価値をいかにして伝えていくか、残していくかということが課題として見えてきています。私たちが誇る文化的景観の魅力を、全国の、そして未来の人々に——まさに空間と時間を超えて伝え広めていく「魅せ方」を見出すためには、町民の皆さんの発想が最大の鍵になることは間違いありません。



## 新年のあいさつに町の風景を

「大江町エコ年賀はがき」が11月1日から販売開始となり、左沢郵便局で発売記念式典が開かれました。式典では郵便局山形県北部地区連絡会の荒木尚人地区統括局長、日本オフィスサポート株式会社東北支社の堀一弘支社長、渡邊町長が除幕をおこなって発売を祝いました。

今回発売されたのは、町誕生60周年を記念して制作された広告付き年賀はがきです。宛名面の下部に楯山公園からの町の風景が印刷されており、町外の方へ年賀状を出した際に町をPRする効果が期待できます。発行されたはがきの枚数は5万枚で、価格は1枚当たり通常よりも5円安い58円です。

この日は、郵便局窓口の営業開始とともに多くの方がエコ年賀はがきを購入。先着20名の方に、郵便局からラ・フランスと「あてらざわせんべい」がプレゼントされました。

町のエコ年賀はがきは、西村山管内の郵便局で購入することができます。ご希望の方はぜひお早めにお買い求めください。



11月1日に左沢郵便局でおこなわれた記念式典の様子



発行されたエコ年賀はがきの記念プレート

## 交通安全の誓い新たに

交通安全啓発イベント「交通安全フェスティバル2019・令和元年度大江町交通安全町民大会」が10月27日にふれあい会館で開催され、交通安全活動に関する各種表彰や大江中学校吹奏楽部の演奏などがおこなわれました。

交通安全講演では、警察官を退職された天中健晴陽さんが「歌と笑いでつづる地域安全」と題して交通安全替え歌などを披露。その後、左沢高校生活委員の3年生・渡辺泰喜さんと2年生・菊地省吾さんが安全な社会を目指す決意表明をおこない、大会を締めくくりました。



## 農業委員会新体制発足

9月定例会での議会の同意を受け、10月8日におこなわれた農業委員会総会において、13人の方が新しい農業委員に任命されました。

また、この総会では新体制についても協議がおこなわれ、会長に明石永七氏（12区）、会長職務代理者に大泉晴稔氏（堂屋敷）が選任されました。

今回決定した新たな体制で、これから3年間、町の農業振興のために地域の農地と担い手を守り生かす活動をしていくこととなります。

## 全国のライバルたちと腕を競う

11月15日から愛知県国際展示場で開催される第57回技能五輪全国大会において、理容部門に佐藤洋輔さん（7区・写真右）が出場することになり、佐藤さんと勤務先であるトータルヘアカメトコの松田通さん（7区・写真左）に、大江町各種技能全国大会等出場激励金が交付されました。

佐藤さんは、昨年引き続き2年連続の出場となりました。全国のライバルと技術を競い合う大会で、さらなる好成績が期待されます。





3歳児

サニ サニ スマイル  
**Sun!Sun!Smile!**

10月4日に3歳児健診を受けた元気なちびっ子たちを紹介します！（順不同）



渡邊 琉星くん  
(美郷)



明石 幸大くん  
(12区)



庄司 冴奈ちゃん  
(藤田)



清水 壮くん  
(堂屋敷)



鈴木 朝陽くん  
(深沢)



伊藤 美桜ちゃん  
(小見)



上田 陽斗くん  
(9区)



小川 紋叶くん  
(荻野)



黒川 華ちゃん  
(諏訪原)



岸 希璃羽くん  
(柳川平)



金山 碧夏ちゃん  
(3区)



堀 真里那ちゃん  
(富沢)



鈴木 啓人くん  
(小見)



柏倉 幸親くん  
(橋上)



松田 叶望くん  
(下北山)



菊地 夏瑠ちゃん  
(みなみ)



山内 光くん  
(藤田)



菅井 紗結ちゃん  
(藤田)



佐藤 知夏ちゃん  
(3区)







## 9/29 サッカーファンに町をPR

サッカーJ2リーグ第34節モンテディオ山形対ヴァンフォーレ甲府が、9月29日にNDソフトスタジアム山形で開催されました。この試合は町内在住・在勤の方が半額以下で観戦できる「大江町応援デー」として実施され、町産のすももと左沢高校の生徒が作ったぶどうゼリーが犬飼教育長からモンテディオ山形に贈呈されました。

ハーフタイムには、O-S T E Pサッカー教室の子どもたちや、町のスペシャルサポーター・日本一くんなどがピッチサイドに入場し、町をPRしました。



## 10/8 宅配便の未来を想像

ヤマト運輸株式会社による特別授業が、10月8日に本郷東小学校の5年生18人を対象として開かれました。この授業は、文部科学省・総務省・経済産業省のプログラミング教育推進事業に同校が応募して実現したもので、全国18校でおこなわれた企業による訪問授業の一つです。

授業では、配達の仕事などの解説のほか、「未来の宅急便」を考えるグループワークを実施。子どもたちはさまざまな立場の人を想定しながら、ロボットや翻訳アプリの活用など、斬新なアイデアを出し合っていました。



## 10/9 安全でおいしい果物の秘訣

安全・安心「ラ・フランス」現地交流会が、10月9日に小漆川地内で開かれました。この交流会は、出荷前の残留農薬検査のためのサンプル採取を通して、安全で安心な農産物について理解を深めてもらおうと開かれているものです。

交流会には生産者や関係機関のほか、大江幼稚園年長児と町食生活改善推進協議会役員が参加。サンプルとなるラ・フランスの採取を園児たちが体験しました。その後、西洋ナシの品種の一つ「バラード」を試食した園児たちは「おいしい」と言いながら次々にお代わりをしていました。



## 10/9 あま〜いすももを召し上げれ

さがえ西村山すもも部会（渡辺誠一部会長・塩野平）から学校給食へすももが提供され、10月9日に左沢小学校で贈呈式がおこなわれました。今回提供された品種は「愛李<sup>らぶり</sup>」で、町内小中学校と左沢高校へ合わせて631個が贈られました。

「すももの酸味が苦手な子もいるため、甘いすももを目指して新品種を作ってきました」と話す渡辺部会長。4年生の若松璃仁さん（9区）と木村咲結さん（小漆川）が代表としてすももを受け取り、木村さんは「すももが大好きで、今日は給食を楽しみにしていました」と話していました。





▲ピアニスト・榊原大さん



▲ギタリスト・木村大さん



▲第2部ではヴァイオリニスト・寺下真理子さんが加わり、トリオの素敵なサウンドが聴衆を魅了しました

## 10/12 至高の演奏を生で体験

町教育文化振興基金活用事業「木村大&榊原大セレブレーション・コンサート」が、10月12日にふれあい会館で開催されました。このコンサートは、町誕生60周年記念事業の一つとして、町民の皆さんに楽しみながら本格的な芸術文化に触れていただこうと企画されたものです。出演者は、クラシック・ギタリストの木村大さんと、ピアニスト・作編曲家の榊原大さん。いずれも演奏家として第一線で活躍され、クラシックのみならずさまざまなジャンルで活動されています。

コンサートは2部構成で、第1部では外国民謡やクラシックなどの名曲のほか、お二人のデュオ・アルバムからの作品が披露されました。第2部では木村さん、榊原さんそれぞれのソロで幕を開け、その後ヴァイオリニストの寺下真理子さんが加わり、ヴァイオリン、ギター、ピアノの旋律が絡み合うトリオのサウンドが響き渡りました。

台風の接近で風雨が強まる中での開催となりましたが、著名な音楽家の演奏が生で聴けるとあって大勢の方が来場。木村さんは「お客さんの拍手がとても温かく感じます」と話しました。アンコールでは馴染み深い「花笠音頭」が披露され、コンサートは大盛況のうちに幕を閉じました。



## 10/20 ふるさとの旬と温泉を満喫

秋の味覚満載の「秋の柳川温泉まつり」が、10月20日に開かれました。柳川温泉のオープンから25年目を迎えた今回は、温泉入浴が当日のみ無料となったほか、旬のきのこをはじめ山菜やイワナ、やまがた地鶏のから揚げなど、町の味覚が勢ぞろいしました。

また、恒例の「新そば賞味会」では「でわかおり」の石臼挽き手打ちそばが当日1食千円で提供され、町内外から多くの方が来場。朝から長蛇の列ができるにぎわいとなり、来場者は手打ちそばならではの食感と風味を堪能していました。



## 10/27 ハロウィンタウンにお化け大集合

おおえ国際交流協会主催の「おおえハロウィンパーティー2019」が、10月27日に中央公民館でおこなわれました。今回は、大江中学校2年生の外国語研修にちなんで「ハロウィンタウン」を開設。本町ALTのデニス先生のほか、朝日町ALTのオリビア先生、西川町ALTのフランク先生が講師となり、英語での買い物の仕方などを楽しく学べるイベントとなりました。

参加者はお化けや映画のキャラクターなど思い思いの仮装で来場し、終了後は「トリック・オア・トリート」の合言葉でお菓子をもらっていました。



登り切った坂道のでっぺんから見えた山は秋の色、きれいだ。すごいな、車を停めた。今朝ほどまでの雨と雲が嘘のように消えた。朝、空が青い、空気も透き通っていて、山・木・風・色・音たちの嘘のないあるがままの自然界のマッチングに、心が洗われた。「かたくり庵」のお祭りに向かう途中のことだ。

小学校の何年生の時に歌ったのか、「秋の夕日に……かえでや……は、濃いも薄いも数ある中で……すそもよう」、……の部分が出てこない。無意識のうちに、いつの間にか歌を歌っている自分が時々いる、大声だったり、歌詞抜きのハミングだったりその時々々の気分次第で。心のひだを埋めるためか……深層心理の歌こころまで詮索したいとも思わないけれど、歌に何かしらの力があるように思える。歌っているとき、歌った後の爽快感が確かに実感できるからだ。

歌う前後のひとり言も、これまた精神衛生上なんともいえない妙薬のようで、負けるな——、犬も歩けば——、がんばれ——、時には「天網恢恢疎にして漏らさず」だ、などなど枚挙に暇がないほどだ。歌と言葉の山道ドライブは、新緑の春と、秋の紅葉のころが最高で、まるで車中独演会。誰にも迷惑のかわらない割合い趣味なのかもしれない、と合点していいものかどうか、慎重運転のこともあるだけに。

忘れた歌詞を思い出す努力は、ひよっとして安全運転を邪魔することになるのではないか、危ない、危ない。先の古寺鉢泉までの、今回の道海地区までの運転中、「やめろよあぶない、やめろよなあ、車中の独演会は」と、頭の中で声が聞こえた。思いつきの選曲を止めよう、すらすら出てくる歌と言葉で悩まずに、軽い気持ちで、楽しみながら。思い出せなかった唱歌は次のとおり、2番は初めて知った歌詞であった。

1. 秋の夕日に照る山紅葉 濃いも薄いも数ある中に  
松をいろどる楓や鳶は 山のふもとの裾模様
2. 溪の流に散り浮く紅葉 波に揺られて離れて寄って  
赤や黄色の色様々に 水の上にも織る錦

(童謡・唱歌 作詞・高野辰之 作曲・岡野貞一)  
大江町長 渡邊 兵吾

## 地域おこし協力隊通信 No.58



今年も日頃の感謝を込めて、11月17日に「やまさあべ秋祭り」を開催します。このお祭りは、やまさあべの体験プログラムのプチ体験ができるイベントです。

昨年大好評だった、ヘビ・カエルタッチ&カブトムシ幼虫プレゼントやテラリウム作りに加えて、やまさあべで育てた新米と町内産のキノコの網焼きの試食もおこないます。メタルマッチ（火打石）を使った火おこし選手権では、タイムトライアルの優勝者にやまさあべ米をプレゼント。他にも芋煮や焼き芋の販売、ミニ・プラネタリウム、絵本の読み聞かせなど盛りだくさんの予定です。子どもからお年寄りまで、どなたでも楽しめるイベントですので、ぜひみなさん遊びに来てください！

地域おこし協力隊 村中 亮竜



▲昨年の「やまさあべ秋祭り」。生き物とふれあって、子どもたちは大喜びでした

### 短歌

十郎畑青芋の郷の斎藤家栄華を偲ぶ石垣残る

柳川 次郎

ぜいたくな時が過ぎゆく演奏会外の嵐も心の隅に

山家 重之

家の中そちこち電子の音鳴りて昭和の卒寿も令和に生きる

菊地つねよ

寄合に弓張提灯携えてくぐり戸跨ぎ馬の鼻息

佐竹 與鼓

白粉のひたいに汗をにじませて祭り奴は槍ふりふりて行く

斎藤 徳治

### 俳句

忘却の風に落ちたる栗拾ふ

鴨田富士夫

大頭森紅葉清し愛の鐘

柳川 次郎

こおろぎの餌食ともなり秋茄子

斎藤 徳治

子供より大人こわがる台風来

山家 重之

秋出水せり上がる波呆然と

阿部 一風

つや姫や知事の一押し今年米

熊谷 勉

空気神祀る参道薄紅葉

舟山 三男

やはらかな秋の日溜り猫眠る

伊藤 啓泉

## 吟遊浪漫

ぎんゆうろまん

※このコーナーに掲載ご希望の方は、毎月20日(必着)まで役場総務課に作品をお寄せください。





高校時代、中学校の柔道部の先輩が所属するレスリング部に入部した伊藤さん。「同じ格闘技でも、レスリングは柔道とは全くの別物だと感じました。ほとんどゼロからのスタートでしたね」

その後厳しい練習を重ね、インターハイや国体への出場を果たし、現在も母校のレスリング部の練習に参加したり、社会人大会に出場したりしているそうです。「小さいころは総合格闘技がブームで、自然とテレビで格闘技を見ていました。柔道部に入ったのは友達から誘われたのがきっかけだったんですが、やってみたら自分に合っていると感じて、そこからずっと格闘技系の競技を続けています」

伊藤さんが勤務しているのは、寒江江市内の製造会社。最近部署の異動があったため、新たに仕事を覚え直す「ゼロからのスタート」の真っ最中だそうです。

伊藤さんの目標は「20代のうちに結婚して、幸せな家庭を築く」こと。人生の新たなスタートラインに立つ日は、もうすぐかもしれません。

新しいスタートラインからの奮闘  
伊藤 直人さん (24歳・2区)

シリーズ企画

## 月刊 仲間とエンジョイ! No.31

町内でスポーツや文化活動などを楽しんでいる皆さんをご紹介します。

### 子育てサークルMippe 代表：佐竹志穂さん (下北山)

子育て支援センターの利用を通して意気投合し、子ども服などの「おさがり交換会」を企画したことから結成に至った、子育てサークル「Mippe」。「大江町で子育てしてみっぺ」という意気込みが名前の由来となり、昨年7月から4人で活動を開始しました。メインの活動であるおさがり交換会のほか、子育て支援センター「ぱれっと」の毎月のお誕生会で「お誕生手形アートのワークショップ」をおこなっています。

「おさがり交換会には、チラシの配布、口コミ、SNSを通して町内外から多くの方に来ていただいています」と話す、代表の佐竹さん。親子を対象としたお仕事体験や、男性のための家事講座など、新たな企画も現在検討中です。



▲オリジナルエプロンを身に付けたMippeの皆さん



▲10月6日に中央公民館で開催された、今年2回目の「おさがり交換会」の様相



# お知らせ

## Information

### 高齢者世帯などの雪下ろし・ 玄関除雪支援について

高齢者や障害者の冬期間の暮らしを守るため、雪下ろしや玄関除雪の支援をおこないます。

◆対象世帯／次の全てに該当する世帯  
 ①町民で現に居住している世帯、  
 ②町民税（所得割）非課税世帯、③  
 高齢者や障害者のみ、または自力で  
 雪下ろしなどができない世帯、④子  
 や親戚などから雪下ろしなどの支援  
 （経済的支援を含む）を受けられな  
 い世帯

◆支援内容／住宅の雪下ろし、それ  
 に伴う住宅周辺の除排雪、除雪車通  
 過後の玄関の除排雪作業に要した費  
 用の一部を支援

◆支援額／対象経費の9割

※雪下ろしの対象となる経費は1回  
 25000円が上限で、3回分まで  
 が対象です。

※玄関除雪の対象経費は回数制限  
 はありませんが、一冬を通して  
 24000円が上限です。

◆留意事項①店舗、農作業小屋、

倉庫、車庫、他人に貸している住居  
 は支援対象になりませんが、②雪下ろ  
 しなどの依頼は、必要な時期に直接  
 事業者などに依頼してください、③  
 できる限り、子や親戚などの方のご  
 協力をお願いします

◆利用申請／申請書を11月18日(月)  
 までに地域の担当民生児童委員にお  
 届けいただくか、11月21日(木)まで  
 に健康福祉課へ提出

※申請書は地域の民生児童委員およ  
 び役場健康福祉課で準備しています。  
 ☎健康福祉課福祉係 ☎(62)2285

### 「山形どまんなか道の駅 5麺バトル」のご案内

西村山地域の道の駅など、5カ所  
 の自慢の麺を食べて台紙にスタンプ  
 を集め、期間内にお気入りの店に  
 スタンプシートを提出すると、その  
 麺一杯をプレゼントします！

◆期日／11月9日(土)～12月16日(月)

※定休日：道の駅にしかわ・火曜日、  
 河北ひなの湯・第2木曜日

◆時間／各道の駅などのお食事処の  
 営業時間

◆会場／道の駅おおい・寒河江・に  
 しかわ・あさひまち、べに花温泉ひ  
 なの湯(河北町谷地)

◆メニュー／◎おおい：たっぷりな

## 灯油などの 購入費を 助成します



灯油などの燃料確保が困難な世帯の冬季の経済的負担を軽減するため、今年度も暖房用燃料費の一部を助成します。今年度は電気代も対象経費とし、対象となる期間についても11月以降購入分に拡充しました。

◆対象世帯／町民税非課税で次のいずれかに該当する世帯

- ◎65歳以上の高齢者のみの世帯
- ◎ひとり親などで18歳未満の児童を養育している世帯
- ◎重度の障害者がいる世帯

◆助成限度額／5千円

◆申請期限／令和2年3月31日(火)

◆必要な書類／大江町冬の生活応援事業支援申請書、令和元年11月1日以降に購入した灯油などの領収書（※電気代で申請する場合は、通常使用時の領収書も併せて提出）、印鑑、振込先口座の通帳の写し、障害者世帯の場合は手帳などの写し

☎健康福祉課福祉係 ☎(62)2285

### 不要農薬の回収について

めこそば・800円、◎寒河江：芋  
 煮カレーラーメン・850円、◎に  
 しかわ：秋のめぐみきのこそば・  
 800円、◎あさひまち：りんご温  
 麺・800円、◎河北：もち入りべ  
 に花鍋焼きうどん・850円

☎山形どまんなか道の駅連絡会

☎(86)1818

を推進しています。登録失効農薬、  
 使用期限切れ農薬、今後使用する見  
 込みのない農薬などの回収を実施し  
 ますので、ご利用ください。

◆日時／11月22日(金)9時～11時

◆会場／JAさがえ西村山大江営農  
 生活センター

◆回収料金／1キログラム(1リッ  
 トル)180円(消費税込) 風袋込、  
 端数切上げ、当日現金支払

◆受付できないもの／水銀剤、有機  
 塩素剤(BHC、DDT、エンドリ  
 ン、ダイルドリン、アルドリン、ク  
 ロルデン、ヘプタクロール)、有機

さがえ西村山農作物安全・安心対  
 策推進会議では、農作物の恒常的な  
 安全確保のため、農薬の適正な使用



### 大江町メール配信サービス をご利用ください!

電子メールで行政情報などを提供するサービスです。無料で登録することができます。

ココから登録! ↓



◆配信内容/

- ①生活情報…町のお知らせ、福祉、子育て、生涯学習など
- ②観光・イベント情報…観光、イベント、スポーツイベントなど
- ③防災情報…防犯、防災など

燐剤(パラチオン、ホリドール)、臭気の強い物(クロールピクリン酸など)

※粉、粒剤、乳液剤、水和剤に仕分けして搬入してください。開封後の端数農薬も受付します。必ず印鑑をご持参ください。

※搬入の際は液漏れや飛散のないよう充分注意してください。埋め立て焼却による薬剤の処理および登録外の使用は絶対におこなわないようにしてください。

☎農林課農政係 ☎(62)2115  
または、J Aさがえ西村山大江営農生活センター ☎(62)3217

### 「犯罪被害者県民のつどい 2019」のお知らせ

社会全体での犯罪被害者などの支援を推進するために開催されます。

◆日時/11月27日(水)13時半~15時45分(開場13時)

◆会場/山形ビッグウイング(山形市平久保)

◆内容/命の大切さを学ぶ教室作文コンクールの発表、デザイン専門学校生などによる広報啓発グッズの発表、基調講演(講師・公益社団法人全国被害者支援ネットワーク理事長・平井紀夫氏)

☎公益社団法人やまがた被害者支援センター ☎023(642)3571

### 山形県求職者総合支援センター出張相談会のお知らせ

県求職者総合支援センターでは、求職者の生活や住まい、就労に関する相談を受け付け、生活の安定および再就職の促進を図っています。この事業の一環として、県内8カ所での「出張相談会」を開催しており、西山地域では次のとおり実施します。予約は不要ですので、当日会場へお越しください。

◆日時/12月18日(水)13時~16時  
◆会場/ハローワーク寒河江(寒河江市西根)

◆相談内容/求職者の生活、住まい、就職活動などの悩み

◆相談方法/面談による相談

◆費用/相談無料

☎山形県求職者総合支援センター ☎0800(800)7867 (フリーダイヤル)

### 「輪投げの集い」のお知らせ

最近高齢者による輪投げ競技がブームとなり、身近なスポーツとしておこなわれるようになってきました。町の輪投げ愛好会(代表・白田耕作)では、誰でも気軽に輪投げを楽しめるように、練習と親睦のための場を設けます。心身の健康増進のために、一緒に輪投げをして楽しませませんか。お気軽にお問い合わせください。

◆日時/毎月第2、第4水曜日 ※第1回目は11月27日(水)に開催します。

◆時間/13時半~16時

◆会場/中央公民館町民ホール

◆参加費/無料

☎教育文化課社会教育係 ☎(62)3666

### 台風19号の影響で秋の恒例イベントが続々と中止になったにもかかわらず、今月号は話題が盛りだくさん。今回載せられなかった話題の一部は、来月号以降に掲載できるように考えています。

地域の皆さんが参加した町の総合防災訓練も、水防訓練の様子がページの隅っこに小さく載るだけになってしまいました。水防訓練は豪雨災害があった後、3年前から総合防災訓練に取り入れられたもので、土のうの作り方や積み方を実際に体験する訓練です。土のうといえば、水害対策の必需品。今回の台風通過時にも使用され、浸水を防いだり排水したりする際に役立ちました。ところで、土のうの「のう」は「囊」と書き、「袋」という意味です。ということとは、「土のう袋」というのは「馬から落馬」とか「頭痛が痛い」とか「一番最初」などと同じく、「袋」という意味がダブった二重表現なので……? という疑問が以前からありました。

### 編集後記

しかしよく考えてみれば、「氷のう」が「氷が入った袋」であるように「土のう」は「土が入った袋」なので、「土のう」を作るための「空の」袋を「土のう袋」というのは、まったく不自然ではないのです。それでも「土のう袋」と聞くと直感的に違和感が……この理屈と感覚の落差の問題は、「いまだに未解決」のままです。(伊藤智治)



# 思い出の まいぞうひん

No.49

## My藏品

皆さんの心に残る思い出の品を、それにまつわるエピソードとともにご紹介いたします。



▲昭和10年代まで横町通りにあったそば屋「上田屋」のはんてん



▲かつて店で使用していた食器類。大正時代に購入したものも残っています  
◀はんてんの背中側には上田屋の屋号紋。下部の模様も「上田」の文字を元にしたデザインになっています

上田家は、かつて「上田屋」の屋号でそば屋を営んでいました。家の造りもそば屋そのもので、2階が客席になっていたということです。店舗は昭和11年の左沢大火で焼失し、昭和13年に再建したのですが、大火前に使われていた食器などの一部は、現在も残っています。

太平洋戦争中、戦局の悪化で食材などが入手できなくなったため、店を閉じたと聞いています。近所の方が、子どものころに上田屋の2階での宴会の様子を見て「楽しそうだなあ」と思ったと話してくれたことがありました。上田屋があったころの左沢には他にも何軒かそば屋があったそうで、かつてのにぎわいがしのべられます。  
(7区 上田裕行)

★皆さんの思い出の詰まった「宝物」はありますか？  
懐かしい写真、長年愛用している道具、旅先で購入した記念の品など、なんでも結構です。  
総務課情報システム係 ☎(62)2187まで、ぜひお知らせください。

## 戸籍のまど

9月21日～10月20日大江町受付分

### ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
13区	大泉 そて	(95)
荻野	鈴木 雪子	(88)
藤田	鈴木 春夫	(94)
9区	公平 ヨシ	(91)
諏訪原	金山 榮三	(80)
小新	結城 一雄	(100)
藤田	佐竹 照子	(92)
9区	清野 昭子	(91)
月布	大泉 傳太郎	(89)
藤田	浦山 きゑの	(96)
みなみ	鈴木 恒義	(66)
下北山	石沢 久廣	(91)
13区	松田 祐	(86)
諏訪原	林 歳幸	(85)
沢口	鈴木 菊雄	(85)
望山	古城 おはな	(77)
小新	結城 清兵ヱ	(90)
藤田	伊藤 つるよ	(89)
2区	菅井 時子	(89)
小漆川	公平 仁志	(57)



### 人口と世帯(前月比)

町の人口	8,047人(-11)
男	4,014人(-9)
女	4,033人(-2)
世帯数	2,897戸(+4)

令和元年11月1日現在

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。